

修士論文（要旨）

2018年1月

教会活動が高齢者の生きがいや生活満足度に与える影響とその過程

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

216J6005

片岡 政子

Master's Thesis (Abstract)  
January 2018

The Influence by which Christian Life gives to Living Degree and  
Satisfaction of Elderly and Its Process

Masako Kataoka  
216J6005  
Master's Program in Gerontology  
Graduate School of Gerontology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor : Hidehiro Sugisawa

## 目次

1. 緒言	1
1) 背景と動機	1
2) 先行研究	2
3) 研究目的	3
2. 研究方法	3
1) 調査対象者	3
2) インタビュー方法	4
3) 分析方法	4
4) 倫理的配慮	5
3. 結果	5
1) 概念の生成	5
2) ストーリーライン	5
3) カテゴリーの詳細	6
4. 考察	12
5. まとめ	15

謝辞

参考文献

## 1. 目的

本研究の目的は、現在教会活動を行っている高齢クリスチャンの信仰生活の過程も視野に入れ、教会活動が高齢者の生きがいや生活満足度に与えている影響を検証することである。分析結果によっては高齢者全体の理解に通じるものがあり、教会においては、高齢者の理解はもとより、高齢者の活躍の場を広げる試みや、一人一人の違いを考慮した対応や支援を考える上での一助となるのではないかと考える。また後に続く壮年層の人たちの道しるべになり得るのではないかと考える。

## 2. 方法

研究対象者はプロテスタント教会の礼拝や集会に出席している72歳から89歳までのクリスチャン男女10名である。対象者の抽出にあたっては大都市に偏らないよう地方の教会も含めて1都3県、複数の教派5教会の牧師に該当者の紹介を依頼し、研究協力の承諾を得られた高齢者を対象に行った。

調査方法は半構造化面接法を用いて1対1で行った。インタビューを行った期間は2017年7月下旬から9月上旬の間であった。インタビューは対象者の所属する教会の一室を借りて行い、1人あたり約1時間程度実施した。分析方法は、ICレコーダーで録音し逐語録に起こし、M-GTAにより分析を行った。以下の《》は生成されたカテゴリーを示している。

## 3. 結果と考察

分析対象者は、クリスチャンになることによって《生き方や価値観に変化をもたらす宗教との出会い》を経験していた。その後、継続的に礼拝に行くことによって、《信仰の定着・成長と生活の規則化》していった経緯があった。このような教会とのかかわりは、大きく3つの点で高齢者の生活満足度の向上に貢献していた。1つは、人生の見つめなおしへの貢献であり、他は高齢期における様々な喪失感への適応、今一つは心身の活性感への貢献であった。人生の見つめなおしへの貢献については以下のようなプロセスをたどるものであった。老年期に至るまでに、分析対象者は《激動の社会を生き抜いてきた》という経験をもっていた。この過程では、多忙なため教会活動への関与が弱かったが、高齢期に至り、《時間・心の余裕と死を意識する》という時期を迎え、教会活動に関わりなおすことで、《改めて教会活動に居場所と精神的安寧を見出す》ことにつながっていた。高齢期における様々な喪失感への適応と心身の活性感への貢献については、分析対象者の中には、高齢期に、《老年期に出会う様々な喪失感》を持つものが少なくなかった。このような経験は教会活動への関与を狭めることになるが、何らかの形で教会活動を継続することで、心身の活性感や《改めて教会活動に居場所と精神的安寧を見出す》ことにつながっていた。

キーワード：教会活動、高齢クリスチャン、信仰生活、生きがい、生活満足度

## 引用文献

- 1) 『新改訳聖書』いのちのことば社
- 2) 岡村直樹 シニアミニストリーとスピリチュアリティの質的研究—宗教教育学の視点から—『キリストと世界』第 19 号 2015 年
- 3) 『キリスト教年鑑 2017』キリスト新聞社
- 4) 第 6 回日本伝道会議日本宣教 170→200 プロジェクト編著『データブック 日本宣教のこれからが見えてくる—キリスト教の 30 年後を読む—』52 頁
- 5) 児玉憲典・飯塚裕子訳『ハヴィガーストの発達課題と教育』川島書店 1997 年
- 6) LAOS 講座 別冊 人生六合目からの歩み—ルーテル教会の応援ノート—
- 7) アルフォンス・デーケン『生と死の教育』岩波新書 2001 年
- 8) 仲野好重・壺井尚子 高齢期における精神的生きがいに関する日独研究 大手前大学
- 9) 神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房 2002 年
- 10) 大塚善樹 社会調査質的研究 ②  
//www.yc.tcu.ac.jp/~otsuka/sr/sr8.html(2017.6.23 検索)
- 11) 木下康人『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』弘文堂 2003 年
- 12) 木下康人 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析技法 富山大学看護学会誌 第 6 巻 2 号 2007 年
- 13) 松島公望、宮下一博 ホーリネス系教会に関わる高齢クリスチャンのキリスト教における宗教性 千葉大学教育学部紀要 第 62 巻 2014 年

## 参考文献

- 14) 山下勝弘『超高齢社会とキリスト教会—特に障害者・高齢者と共存する教会形成を考える』キリスト新聞社 1997 年
- 15) 奥山陽子他 高齢被害者による語り部活動の開始・継続プロセス—新潟水俣病の事例—『老年学雑誌』第 7
- 16) 平泉光一『社会科学における実証研究の方法—論文作成の指針』デザインエッグ社
- 17) 原田隆他 高齢者の生活習慣に関する調査(2)—余暇活動と生きがい感について—名古屋文理大学紀要 2011 年
- 18) 石川久展他 高齢者のソーシャルネットワークの特徴と生活満足度との関連に関する研究—4 つの地域特性別分析の試み—人間福祉学研究第 2 巻第 1 号 2009 年
- 19) 長谷川明弘他 高齢者の生きがいとその関連要因についての文献的考察—生きがい・幸福感との関連を中心に—総合都市研究第 75 号 2001 年
- 20) 北島博美他 認知症末期にある特別養護老人ホーム入居者に対する介護スタッフのケアプロセス 『社会福祉学』第 51 巻 1 号 2010 年
- 21) Masami Takahashi 高齢化と宗教の老年学のおよび心理学的な考察—生きがいと自分らしさのダークサイド— 現代宗教 2014
- 22) 鍋谷堯爾、森優『改訂新版老いること、死ぬこと』いのちのことば社
- 23) 長田久雄・箱田裕司編 日本心理学会監修 『超高齢社会を生きる—老いに寄り添う心理学』誠信書房 2016 年
- 24) 森清『自分らしい最期を生きる—セルフスピリチュアルケア入門』教文館 2015 年